

## 真夏に南極の氷が登場 静岡科学館

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、8月6日（火）、静岡科学館の・く・る（静岡市）のイベント「南極の氷にさわってみよう」において、海上自衛隊の南極地域観測支援活動をPRした。

これは、同館が行っている「普段感じることができない不思議な世界」を体験するサイエンスショーの一つで、例年、海上自衛隊から砕氷艦「しらせ」が持ち帰った本物の南極の氷を提供し、「見て・聴いて・触れる」をテーマに多くの子供連れの家族を楽しませている。

まず、広報官がクイズ形式で南極と海上自衛隊の深い関わりや、南極の氷と普通の氷の違いなどを子供たちに紹介。さらに、地球儀を使って南極の位置やペンギンがいるかどうかを問うクイズなどで盛り上がり、子供たちの氷に対する期待が高まったところで、会場に本物の南極の氷が登場。子供も大人も、氷から漏れるプチプチという太古の空気がよみがえる音に耳を傾け、1万年前の空気を内包した南極の氷の神秘に心が吸い込まれているようだった。また、南極でしか採取できない貴重な石や砕氷艦「しらせ」の模型も展示し、海上自衛隊の南極地域観測支援に理解を深めてもらった。

来館した家族連れからは「南極の氷の細かな気泡に1万年以上前の空気が含まれているなんて、氷のタイムカプセルみたいで素敵」「南極に行ってみたい。どうしたら南極にいけるのかな」などと、南極に思いをはせる多くの声を聞くことができ、ひと夏の思い出を作ってもらえたようだった。

静岡地本は、今後もこのような企画を積極的に支援して、世界で活躍する自衛隊の姿を広く紹介し、子供たちに夢と希望を与えていく。



## 1泊2日で航空自衛隊を体験 in 静浜！

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、8月7日（水）と8日（木）の2日間、航空自衛隊静浜基地（焼津市）で行われた「夏休み青少年防衛講座」に、中学・高校生39人を引率した。

本講座は、自衛隊の基地で隊員と同じような施設と日課で起居宿泊し、自衛隊の実際の姿を広く知ってもらい、普段の隊員の生活に理解を深めてもらうという企画したもの。

両日とも30度を超える猛暑での生活体験となり、早速デジタル迷彩の作業服姿に着替え自衛官の動作の基本となる「基本教練」を体験。「敬礼」「右向け右」といった教官の号令に、参加者は戸惑いながらも一生懸命体を動かし、夕刻や翌朝の国旗掲揚に備えた。「航空自衛隊の本物の作業服が着られて、とても嬉しいです」と感激の声も聞かれた。

また、訓練で使用するT-7初等練習機や消防小隊・燃料小隊など、さまざまな職場を見学して航空自衛隊の仕事について理解を深めたほか、航空機の離着陸が終了した滑走路では、今回目玉の「ランウェイウォーク」が開催された。夕日に照らされた滑走路の幅いっぱいになり全員一列になって歩き、貴重な体験に参加者は笑顔を見せていた。

最後は消灯ラップを聞きながら自分でベッドメイキングした毛布の中でお互い思い思いの感想を述べあいながら深い眠りについた。参加者からは「いろいろな仕事があることに驚き、とても勉強になりました」「航空自衛官に憧れているので、更に意欲がわきました」といった感想が聞かれた。

静岡地本は、あらゆる自衛隊の職場見学の機会を活用し、より多くの学生に自衛隊の魅力を伝え、理解を深めてもらえるよう引き続き努力していく。

